

研究主題 豊かな人間性を育む教育課程の推進
～情報社会に適応できる力を育む教育課程編成のための校長の関わり～

氏 名 丸 山 一 裕 （山形市立第八小学校）

1 はじめに

未来社会 Society 5.0 を提唱する我が国においては、学校教育にも ICT を活用した授業の推進と、ネット端末を正しく安全に利用できる児童の育成が望まれている。コロナ禍にあって人との交流が制限される中では、ICT の活用による交流がこれまで以上に期待される。

本研究は、情報社会に適応できる力を育む教育課程の編成と授業のあり方を探るものである。児童にとって、これからの社会は ICT も活用しながら人となりのつながりを広め、さらに豊かな人間性を育てていくものとする。

2 研究の概要

(1) 研究のねらい

情報社会にも適応できる力を育む教育課程編成に向け、ICT を活用した実践を通して校長の関わり方を明らかにする。

(2) 研究の経過

①第一次（R2 年度）

- ・ 山形市内小学校の ICT 活用状況等、及び、家庭のインターネット環境調査
- ・ 実践交流と課題の集約

②第二次（R3 年度）

- ・ 山形市内小学校のタブレット活用状況等、及び、情報モラル調査
- ・ 実践交流と課題の整理

③第三次（R4 年度）

- ・ 研究のまとめと成果の共有

3 研究の内容

(1) 山形市内小学校児童の家庭におけるインターネット使用状況調査

- ①インターネット環境調査の分析
- ②児童のインターネット使用状況分析
- ③分析のまとめ

(2) ICT を効果的に取り入れた授業実践

- ①「児童一人1台のタブレット環境」を生かした山形市内小学校の取組

②（タブレット以外の）ICT を活用した授業の充実に向けた取組

③情報モラルや、危険性について学ぶ授業

④実践の結果

(3) 情報社会に適応できる力を育む教育課程編成をめざして（課題解消へ向けて）

- ①「児童一人1台のタブレット環境」に関するアンケート結果（児童・教員）
- ②令和4年度 教育課程の実際

4 成果（○）と課題（●）

- 家庭での児童のインターネット使用状況と「一人1台のタブレット」活用における児童および教員の困り感を把握し、授業の改善と ICT 機器の活用推進に役立てることができた。
- 教科横断的、そして、ICT を効果的に活用した授業実践を通じて、人と人、地域とのつながりが育まれていることを確認できた。
- 学校教育目標の実現に向けた教育課程の編成に、「人とのつながり」と「ICT の活用」をキーワードにしながら、校長はどう関わっていくのかを改めて考えることができた。
- 日々、発展している ICT 環境に適応するため、情報教育の各分野の計画を意識的に見直していく必要がある。（環境整備の面も含む）
- 教員の指導力向上に継続して取り組む必要がある。（研修時間確保、外部講師招聘等）
- 担任の得意・不得意に拘わらず、必ず（学年等で）学習する内容の確認が必要である。

5 提 言

校長は、児童の「豊かな人間性」を育てるために、次のことに積極的に関わっていく。

- (1) ICT も有効に活用した「人とつながる喜び」（交流）を基本にした計画的・系統的な教育課程の編成について全職員が参画
- (2) 日進月歩の ICT の世界において、児童の ICT 活用能力を高められるような教員の研修と環境整備のあり方について検討